

平成24年10月15日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長

中島 正愛

### 教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

### 記

1. **公募人員：** 准教授 1名
2. **所 属：** 大気・水研究グループ 気象・水象災害研究部門 耐風構造研究分野
3. **研究内容等：**

フィールド調査や風洞実験、あるいは数値モデルを用いた解析など多角的な方法を用いて、強風災害の防止・軽減、および都市の風環境改善に関する研究を行う。また、強風災害に関わる現象の確率・リスクモデルの構築とその実務への応用に関する研究、さらに、耐風設計に向けた新しい方法論の開発と実装に関する研究を進める。教育面では、京都大学大学院工学研究科建築学専攻の教育を担当する。
4. **任用時期：** 可能な限り早い時期
5. **応募資格：** 博士の学位を有すること。  
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **提出書類：** 次の(1)～(6) 各一式
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの）
  - (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
  - (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
  - (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどの

ような研究を行うか、応募者の考えを示すこと)

(6) 推薦書 (または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先)

7. **公募締切**： 平成25年1月15日 (火)【必着】

8. **書類提出先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付  
気象・水象災害研究部門 耐風構造研究分野 准教授候補者選考委員会 宛  
(封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること)

9. **問い合わせ先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付  
気象・水象災害研究部門 耐風構造研究分野 准教授候補者選考委員会 宛  
e-mail:apply\_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp  
(封書あるいは電子メールに限る)

10. **その他**：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

## 気象・水象災害研究部門の概要

### 1. 研究目的及び研究内容の概要

大気や水に関する現象には、人間の周りのごく微少な大きさから地球全体に至る様々な空間スケールのもが存在します。時間スケールも、竜巻のように激烈で時間の短いものや、ブロッキング現象のように一ヶ月以上の長期にわたって持続して広い地域に異常天候をもたらすものなど様々です。これらの現象は、人間活動とも複雑に絡み合いながら、時にはすさまじい破壊力で人々の安全を脅かしてきました。近年では、人間活動の飛躍的増大とともに大気・水環境も大きく変貌し、地域規模から地球規模まで数多くの環境問題が生じています。

5つの研究分野から成る当部門では、大気と水に関する様々な現象の発現機構の解明と予測に関する研究を通じて、大気災害や水災害の軽減と防止のために、また、さまざまな規模の環境問題の解決に資することを目指して研究を進めています。最近では地球温暖化に関連して、地球規模の気候変動や環境変化に伴う大気・水循環の変化予測の研究、水災害環境対策技術の開発に資する研究、極端化・異常気象に起因する降雨・流出・河川氾濫や暴風・高潮・高波災害に関する研究も開始しました。また、近い将来発生が予想される南海・東南海地震による津波災害の防御に係わる研究も進めています。現象の解明や予測手法のみならず、建築物・構造物の設計法など具体的な制御方策の研究までを5分野で連携して進めています。

### 災害気候研究分野

大気組成、海洋・大気循環などの変動による異常気象・異常天候の発現過程や予測可能性、気候変動の実態とその機構を解明することを目指し、大気大循環モデルや領域気象モデルなどさまざまな大気モデルを用いた数値実験や、長期間の気象海洋観測データ、さらには現業アンサンブル数値天気予報結果の解析などにより研究を進めています。

### 暴風雨・気象環境研究分野

気象災害の原因となる台風・豪雨・暴風など異常気象現象の構造とその発生・発達機構を解明することを目的として、衛星データ解析・気象データ解析・数値モデリングなどの手法を用いた研究を進めています。また、異常気象現象の背景となるアジアモンスーンの変動に関する研究、我が国の大気環境を決めている東アジア域の大気質に関する研究も進めています。

### 耐風構造研究分野

台風や竜巻などの強風による災害の低減のために、強風被害の発生メカニズムの解明と被害予測手法の確立、強風災害に強い建築構造物を設計するための合理的な耐風設計法の提案、強風時の火災気流を含めた都市内の風環境の研究等を、観測、実験、数値シミュレーション、災害調査などによって行っています。さらに、リスク評価、社会的な意思決定支援への貢献もこれからの研究ビジョンと位置づけています。

## 沿岸災害研究分野

人口が稠密で高度に利用されている沿岸部を海からの脅威に備える研究を行っています。そのため、波動の理論的研究、数値解析的研究、室内実験・現地観測研究および災害調査を通して、津波や高潮・高波の推算、海岸変形評価、自然環境・景観も考慮した海岸・海洋構造物の耐波・性能設計、海岸環境の保全技術、地球規模の気候変動に伴う台風特性の変化や異常潮位・海面上昇が沿岸災害に及ぼす影響を研究します。

## 水文気象災害研究分野

流域場と大気場との相互作用ならびに人間活動をベースとした水・熱・物質循環系の動態解析とモデル開発、ならびに都市・地域の人間・社会と自然との共生を考慮した健全な水・物質循環システムの構築に向けた研究を行っています。

## 2. 現在の教員構成 (2012年10月15日現在)

	【教授】	【准教授】	【助教】
災害気候研究分野	向川 均	榎本 剛	井口敬雄
暴風雨・気象環境研究分野	石川裕彦	竹見哲也	堀口光章
耐風構造研究分野	丸山 敬	(本公募)	(空 席)
沿岸災害研究分野	間瀬 肇	森 信人	安田誠宏
水文気象災害研究分野	中北英一	城戸由能	

### ----- 共同利用・共同研究拠点について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>